

■ごあいさつ



富山県知事 石井 隆一

全国若者・ひきこもり協同実践交流会が本県で開催されますことは大変喜ばしく、全国からご参加の皆様には、心から歓迎申し上げます。

日頃、若者やひきこもりの方が抱える課題の解決に向けて取り組んでおられる皆様が、本交流会において、様々なテーマについて幅広く議論され、交流を深められることは大変有意義なことと存じます。

本交流会を契機に、全国の皆様が結びつき、それぞれの活動が一層充実したものになることを期待しています。

第13回全国若者・ひきこもり協同実践交流会 inとやま
実行委員長 引網 純一

全国若者・ひきこもり協同実践交流会が、北陸で初めて、富山県で開催されることになりました。この大会で若者、家族、支援者がそれぞれの生き方を語り合い、その多様な生き方を支え合うような交流会になればと思っています。実行委員会での話し合いの積み重ねを通して、富山での連携が深まり、さらに交流会で繋がりが全国にまで広がるような会になることを期待しています。

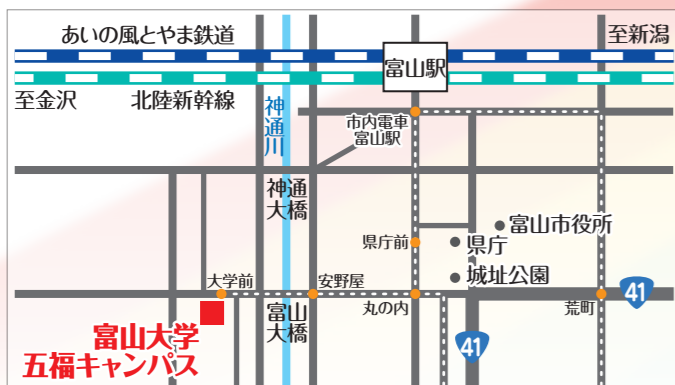
■フリンジ企画

作品展
～自由な表現と自由な交流の場～

今までの自分の枠を飛び越えて自由に表現をしてみませんか？
表現とは絵や詩、音楽、料理、アニメ、その他趣味…。その人の興味のあるもの全て。
興味のあるものを持ち寄り、皆でみたり、おしゃべりしたり…。ホッとできる場。
多様な人々が集まり、多様な気持ちを共有、認め合う場。だれもがごちゃまぜの交流の場。

■タイムスケジュール

	8:30	9:30	11:30	12:00	12:50	13:30	15:30	16:00	18:00	18:30	20:30	
[1日目] 9日				受付開始	開会 あいさつ 基調報告	全体 シンポジウム (黒田講堂ホール)	休憩 移動	テーマ別 分科会 (共通教育棟各教室)			懇親会 (大学生協食堂)	
[2日目] 10日	受付開始	テーマ別 分科会 (共通教育棟各教室)	お昼休憩	テーマ別 分科会 (共通教育棟各教室)	終わりの つどい (共通教育棟)	後夜祭						



■会場案内 富山大学五福キャンパス 〒930-8555 富山市五福3190番地
■交通案内 ★JR富山駅 市内電車「富山駅」停留場
大学行き(15分)～「大学前」停留場から徒歩5分
★JR富山駅南口、3番バス乗り場富山大学経由(20分)～「富山大学前」バス停すぐ
☆富山空港から富山駅までバスで約20分
*公共の交通機関をご利用ください

参加申し込みについて

ご参加には申し込みが必要です。
メール、FAXでの申し込み方法を準備しています。
準備ができ次第、大会ホームページに掲載します。
【大会ホームページアドレス】
<http://www.jycforum.org/>

問い合わせ先

■現地事務局
Eメール hikikomori.toyama.2017@gmail.com (担当:山岡)
■JYCフォーラム事務局
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7F
Mail: info@jycforum.org HP: <http://www.jycforum.org/>

9月13日(水)現在の情報になります

ほくりく発

語り合おう 私の生き方
支え合う 多様な生き方



2017年
日時 **12月9日** 土 **10日** 日
会場 **富山大学五福キャンパス**
〒930-8555 富山県富山市五福3190

参加費 一般 3,000円
学生・若者 1,000円

*事前の申し込み、お支払いをお願い致します。
11月30日締め切りです。
*「学生・若者」は自己申告です。

主催: JYCフォーラム(若者支援全国協同連絡会) 全国若者・ひきこもり協同実践交流会inとやま実行委員会

後援: 富山県 富山県教育委員会 富山市 高岡市 魚津市 氷見市 滑川市 黒部市 砺波市 小矢部市 南砺市 射水市
舟橋村 上市町 立山町 入善町 朝日町 富山市教育委員会 高岡市教育委員会 (福)富山県社会福祉協議会
(福)富山市社会福祉協議会 (福)氷見市社会福祉協議会 親子のリレーションシップほくりく

■大会趣旨

第13回全国若者・ひきこもり協同実践交流会が、富山で開かれます。この10年ちょっとの歩み中で、私たちは社会的ひきこもりに特化していたりくみを、すべての日本の若者の問題としてとらえるようになりました。ひきこもりの若者が抱える「生きづらさ」はすべての若者に共通することであり、競争や貧困など社会的な原因を持つと考えたからです。また、実践のあり方として「協同実践」という新しい考え方を打ち出すようになりました。支援と被支援、若者と大人の垣根を越えて、ともに自分たちの抱える課題を解決し、新しい生き方・働き方を探り、地域や社会をつくる主体になっていこうということです。北陸で開かれるのは、初めてです。地域固有の課題や創造的なりくみに学びながら、私たちの実践を豊かにしていく集会になることをめざしています。

JYCフォーラム代表 元大東文化大学学長 太田政男



テーマ別分科会

全体シンポジウム『地方における若者協同実践』

近年、にわかには「地方」「地域」ということが注目されるようになってきていますが、「若者協同実践」という観点で見た場合、それはどのように描けるでしょうか？一般的には地方の「資源のなさ」に注目が集まりがちですが、逆にインフォーマルな資源が実は豊富だったり、分野ごとの垣根が低いという側面もあります。そしてそれらの中には、都市部でも活用・展開可能なヒントがたくさん含まれています。そこで今回は、地方周辺都市における若者協同実践の取り組みを集め、検討します。

【コーディネーター】野中康寛
(社会福祉法人 一妻会 妻の郷/和歌山)

【シンポジスト】藤井裕也
(NPO法人 山村エンタープライズ/岡山)
宮田 隼
(コミュニティハウスひとのま/富山)
上村俊雄
(ワーカースコープ但馬地域福祉事業所/兵庫)

分科会

1 ひきこもる家庭への支援

ひきこもりの長期高齢化により、家族は体力気力の衰えや介護などの問題に直面しています。外部にSOSを出しにくい地域性や人間関係も、家族や本人を孤立させる背景にあります。また貧困や家族全体の孤立など生活問題が多様化し、従来のひきこもり支援に限らない多角的なアプローチが必要とされています。孤立化を防ぎ地域で共に生きていくという観点から、本人、家族、地域の視点を交え、多職種による支援について考えます。

【コーディネーター】川北 稔
(愛知教育大学/愛知)
島田 朋子
(とやま大地の会/富山)

【コメンター】中川 健史
(NPO法人 仕事工房ボポロ/岐阜)

分科会

2 実践としての“住まい”

「住まい」の保障や「住む」という実践の意義について考えていきます。相談支援機関/就労支援機関の近所へ引っ越し・共同生活・シェアハウスの実践を参考に、ひきこもり・ホームレス・児童擁護施設等退所後・薬物依存等々、若者の状態にあわせた住む場づくりの意義と、住む場における段階的な支援のあり方について議論を深めます。

【コーディネーター】牟田 光生
(NPO法人 教育研究所/富山)
布村 武信
(チャイルドライン/富山)
岡部 茜
(大谷大学/京都)

【コメンター】穴澤 義晴
(NPO法人コミュニティワーク研究実践センター/北海道)

分科会

3 ともにはたらく

「はたらく」ってみなさんは、どんなイメージをお持ちですか？「どこなら働けるんだろう？」若者が家庭から出て「何か」との接点を求めた時、「出会う」「つなぐ」「つながる」等をキーワードに地域や職場と若者が「共にはたらく・いきる関係づくり」について、そのアイデアをともに探ってみましょう。

【コーディネーター】末村 裕美
(with+/富山)
橋本 順子
(とやま大地の会/富山)

【コメンター】古村 伸宏
(日本労働者協同組合(ワーカースコープ)連合会/東京)

分科会

4 論ずるより作って感じる居場所

若者支援や地域づくりのなかで居場所の重要性については共有されていますが、「こんな居場所があったらいいな」という具体的な居場所のイメージはさまざまで人の数だけあります。そこで、それぞれの居場所に対する思いや工夫を共有して、居心地がよい居場所とはなにかを考えていきたいと思います。

【コーディネーター】阿比留 久美
(早稲田大学/東京)
松居 和世
(にいかわ若者サポートステーション/富山)
宮田 隼
(コミュニティハウスひとのま/富山)

【コメンター】調整中

分科会

5 出会い・参加・共働のある地域づくり

生きづらさを抱えた若者達が地域に出会い、参加し、働く(役割や出番をもつことを含む)機会をどのようにつくることができるか。また地域側の視点では、若者を含むあらゆる世代、背景の人を巻き込んだ共生社会の実現をどのように進めていくのか、全国から集まった実践事例から学び、参加者全体で“若者との共働”をキーワードに 深めます。

【コーディネーター】中村 雄介
(NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝/大阪)
山尾 周平
(社会福祉法人氷見市社会福祉協議会/富山)
門田 晋
(NPO法人 むげん/富山)

【コメンター】調整中

分科会

6 若者支援と発達・精神障がい

若者たちの中には、発達障害や精神障害の影響を受け、「仕事が続かない」など、様々な困難や生きづらさに直面することが少なくありません。本分科会では、ピアサポートの取り組みに注目しながら、若者の持つ多様な個性を認め合い、自分の未来図を描ける協同実践のあり方を、参加者同士で学び、話し合い、深めていきたいと思います。

【コーディネーター】中塚 史行
(NPO法人教育サポートセンターNIRE/東京)
鈴木 勇
(富山県発達障害者支援センター「ほっぷ」/富山)
松井 由利子
(NPO法人 プラスワン/富山)

【コメンター】山本 耕平
(立命館大学/京都)

分科会

7 現場実践から考える多様な学びへの支援

学齢期のひきこもりや不登校の学びに向けた支援について、カウンセリングルーム、フリースクール、学校などの居場所や学びの場などの実践報告を持ち寄り、教育、異職種の現場のネットワークの中で、それぞれが支え助け合い、垣根を越えて連携しあうことの意味を考えます。

【コーディネーター】松島 裕之
(NPO法人フリースクール全国ネットワーク/東京)
高野 愛
(星槎国際高等学校/富山)
深澤 大地
(富山県こどもこころの相談室/富山)

【コメンター】高山 龍太郎
(富山大学/富山)
立瀬 剛志
(富山大学/富山)

分科会

8 LGBTQと家庭・学校・地域の課題

LGBTQという言葉の普及とはうらはらに、多様なセクシュアリティを持つ若者の中には、いまだに身近な人々の無理解・偏見や、それを一因とする深刻な社会的孤立に苦しむ例が少なくありません。本分科会では、当事者が経験した困難の具体例をふまえて、家庭・学校・地域における具体的な課題と実践について、皆さんと一緒に考えていきます。

【コーディネーター】辻岡 秀夫
(NPO法人 ゆどうぶ/東京)
松尾 祐子
(富山福祉短期大学/富山)
西宮 外喜子
(まちかど保健室/富山)

【コメンター】林 夏生
(富山大学/富山)

分科会

9 官民でひらく若者支援

「連携って大事だよ」とは言うものの、その実質化は難しい課題です。場を設けてみても、通り一遍の形式的な顔合わせで終わってしまったり、「ネットワーク疲れ」を起こしてしまったり…。公的機関と民間団体、そして市民の方々がともに出会い、つながっていけるような場・しかけはどのように設定できるのか、いろんな立場・角度から考えてみたいと思います。

【コーディネーター】南出 吉祥
(岐阜大学/岐阜)
守谷 泰弘
(矯正施設/富山)
酒井 誠
(一般社団法人富山県社会福祉士会/富山)

【コメンター】佐藤 洋作
(NPO法人文化学習協同ネットワーク/東京)